

10 暗記表①

文法
まとめ制限時間
30分合格点
80点

点

英語の列を隠して、日本語を英語にできるかチェックし、正解なら○、不正解なら×を書きましょう。

be 動詞(am、are、is)は、「です」や「います」という意味です。例) He is in Japan.

I には am、単数を表す語には is、複数を表す語や You には are がつきます。

be 動詞に not をつけると否定文、be 動詞を文頭におくと疑問文になります。

①	私はアメリカにいます。	I am in America.			
②	彼女はアメリカにいます。	She is in America.			
③	彼らはアメリカにいます。	They are in America.			
④	彼らはアメリカにいません。	They aren't in America.			
⑤	彼らはアメリカにいますか？	Are they in America?			
⑥	私はアメリカ出身です。	I am from America.			
⑦	私達はアメリカ出身です。	We are from America.			
⑧	彼はアメリカ出身です。	He is from America.			
⑨	彼はアメリカ出身ではありません。	He isn't from America.			
⑩	彼はアメリカ出身ですか？	Is he from America?			

am や is の過去形が was、are の過去形が were です。例) He was in Japan.

was や were も not をつけると否定文、be 動詞を文頭におくと疑問文になります。

be 動詞で始まる疑問文には、be 動詞を使って答えます。例) Was he in Japan? → Yes, he was.

①	私はアメリカにいました。	I was in America.			
②	彼女はアメリカにいました。	She was in America.			
③	彼らはアメリカにいました。	They were in America.			
④	彼らはアメリカにいませんでした。	They weren't in America.			
⑤	彼らはアメリカにいましたか？	Were they in America?			
⑥	(⑤の疑問文に「はい」と答える)	Yes, they were.			
⑦	彼女はひまでした。	She was free.			
⑧	彼女はひまではありませんでした。	She wasn't free.			
⑨	彼女はひまでしたか？	Was she free?			
⑩	(⑨の疑問文に「いいえ」と答える)	No, she wasn't.			

There is ~ は「～があります」という意味です。例) There is a pen in my bag.

複数のものが「あります」という場合、There are になります。例) There are ten pens in my bag.

There is の文の be 動詞に not をつけると否定文、be 動詞を文頭におくと疑問文になります。

①	その机の上に(1冊)本があります。	There is a book on the desk.			
②	その机の上に(1冊)本がありました。	There was a book on the desk.			
③	その机の上に(1冊)本がありませんでした。	There wasn't a book on the desk.			
④	その机の上に(1冊)本がありましたか？	Was there a book on the desk?			
⑤	(④の疑問文に「はい」と答える)	Yes, there was.			
⑥	その机の上に2冊の本があります。	There are two books on the desk.			
⑦	その机の上に2冊の本がありました。	There were two books on the desk.			
⑧	その机の上に2冊の本がありませんでした。	There weren't two books on the desk.			
⑨	その机の上に2冊の本がありましたか？	Were there two books on the desk?			
⑩	(⑨の疑問文に「いいえ」と答える)	No, there weren't.			

20 暗記表①	文法 まとめ	制限時間 30分	合格点 80点	点
---------	-----------	-------------	------------	---

英語の列を隠して、日本語を英語にできるかチェックし、正解なら○、不正解なら×を書きましょう。

study や speak のように「～します」という意味を表す動詞を一般動詞といいます。
一般動詞の前に don't をつけると、否定文になります。例) I don't play the piano.
文頭に Do をつけると、疑問文になります。例) Do you play the piano?

①	彼らは数学を勉強します。	They study math.			
②	彼らは数学を勉強しません。	They don't study math.			
③	彼らは数学を勉強しますか?	Do they study math?			
④	(③の疑問文に「はい」と答える)	Yes, they do.			
⑤	(③の疑問文に「いいえ」と答える)	No, they don't.			
⑥	私は英語を話します。	I speak English.			
⑦	私は英語を話しません。	I don't speak English.			
⑧	あなたは英語を話しますか?	Do you speak English?			
⑨	(⑧の疑問文に「はい」と答える)	Yes, I do.			
⑩	(⑧の疑問文に「いいえ」と答える)	No, I don't.			

主語が3人称で単数の場合、一般動詞の後にsがつきます。play→plays、teach→teaches、study→studies
一般動詞の前に doesn't をつけると、3人称単数の否定文になります。例) He doesn't play the piano.
文頭に Does をつけると、3人称単数の疑問文になります。例) Does he play the piano?

①	彼女は数学を勉強します。	She studies math.			
②	彼女は数学を勉強しません。	She doesn't study math.			
③	彼女は数学を勉強しますか?	Does she study math?			
④	(③の疑問文に「はい」と答える)	Yes, she does.			
⑤	(③の疑問文に「いいえ」と答える)	No, she doesn't.			
⑥	太郎は英語を話します。	Taro speaks English.			
⑦	太郎は英語を話しません。	Taro doesn't speak English.			
⑧	太郎は英語を話しますか?	Does Taro speak English?			
⑨	(⑧の疑問文に「はい」と答える)	Yes, he does.			
⑩	(⑧の疑問文に「いいえ」と答える)	No, he doesn't.			

一般動詞に ed をつけると「～しました」という過去の意味になります。play→played、study→studied
一般動詞の前に didn't をつけると、過去の否定文になります。例) He didn't play the piano.
文頭に Did をつけると、過去の疑問文になります。例) Did he play the piano?

①	彼らは数学を勉強しました。	They studied math.			
②	彼らは数学を勉強しませんでした。	They didn't study math.			
③	彼らは数学を勉強しましたか?	Did they study math?			
④	(③の疑問文に「はい」と答える)	Yes, they did.			
⑤	(③の疑問文に「いいえ」と答える)	No, they didn't.			
⑥	彼女は英語を話しました。	She spoke English.			
⑦	彼女は英語を話しませんでした。	She didn't speak English.			
⑧	彼女は英語を話しましたか?	Did she speak English?			
⑨	(⑧の疑問文に「はい」と答える)	Yes, she did.			
⑩	(⑧の疑問文に「いいえ」と答える)	No, she didn't.			

英語の列を隠して、日本語を英語にできるかチェックし、正解なら○、不正解なら×を書きましょう。

be 動詞＋動詞に ing をつけた形 は「～している」という意味です。例) He is playing the piano.
進行形の be 動詞に not をつけると、否定文になります。例) He isn't playing the piano.
進行形の be 動詞を文頭に置くと、疑問文になります。例) Is he playing the piano?

①	彼女は英語を話しています。	She is speaking English.		
②	彼女は英語を話していません。	She isn't speaking English.		
③	彼女は英語を話していますか？	Is she speaking English?		
④	(③の疑問文に「はい」と答える)	Yes, she is.		
⑤	彼らは数学を勉強していました。	They were studying math.		
⑥	彼らは数学を勉強していませんでした。	They weren't studying math.		
⑦	彼らは数学を勉強していましたか？	Were they studying math?		
⑧	(⑦の疑問文に「いいえ」と答える)	No, they weren't.		
⑨	彼は日本に行くことになっています。	He is going to Japan.		
⑩	彼は日本に来ることになっています。	He is coming to Japan.		

can(～できる)や will(～でしょう)のように、動詞に追加の意味を持たせる語を「助動詞」といいます。

will be + ~ing は「～しているでしょう」という意味です。例) He will be studying math.
助動詞に not をつけると否定文、助動詞を文頭に置くと疑問文になります。

①	彼は日本語を話すことができます。	He can speak Japanese.		
②	彼は日本語を話すことができました。	He could speak Japanese.		
③	彼は日本語を話さねばなりません。	He must speak Japanese.		
④	彼は日本語を話すべきです。	He should speak Japanese.		
⑤	彼は日本語を話すでしょう。	He will speak Japanese.		
⑥	彼は日本語を話しているでしょう。	He will be speaking Japanese.		
⑦	彼が先生であるはずがありません。	He can't be a teacher.		
⑧	彼は先生にちがいありません。	He must be a teacher.		
⑨	日本語を話してもいいですか？	Can I speak Japanese?		
⑩	日本語を話してくれませんか？	Can you speak Japanese?		

be 動詞＋going to ~ で「～するつもり」、**be 動詞＋able to ~** で「～できる」という意味です。

have to は「～せねばならない」という意味です。3人称単数だと have が has になります。

had better は「～した方がよい」、ought to は「～すべきだ」、used to は「よく～した」という意味です。

①	彼は英語を話すつもりです。	He is going to speak English.		
②	彼は英語を話すことができます。	He is able to speak English.		
③	彼は英語を話さねばなりません。	He has to speak English.		
④	彼は英語を話さなくてもいいです。	He doesn't have to speak English.		
⑤	彼は英語を話した方がよいです。	He had better speak English.		
⑥	彼は英語を話さない方がよいです。	He had better not speak English.		
⑦	彼は英語を話すべきです。	He ought to speak English.		
⑧	彼は英語を話すべきではありません。	He ought not to speak English.		
⑨	彼は英語をよく話しました。	He used to speak English.		
⑩	ここに以前は学校がありました。	There used to be a school here.		

40 暗記表①	文法 まとめ	制限時間 30分	合格点 80点	点
---------	-----------	-------------	------------	---

英語の列を隠して、日本語を英語にできるかチェックし、正解なら○、不正解なら×を書きましょう。

be 動詞＋動詞の過去分詞形 で「～される」という受け身の意味になります。例) This pen is used by him.
ひとまとめになっている動詞を群動詞といいます。群動詞は受け身でもひとまとめのままです。
「聞かれる」「見られる」「言われる」「頼まれる」「させられる」は、その行動に to がつきます。

①	この箱は彼によって使われます。	This box is used by him.		
②	この箱は彼によって使われません。	This box isn't used by him.		
③	この箱は彼によって使われますか？	Is this box used by him?		
④	彼女は彼によって尊敬されています。	She is looked up to by him.		
⑤	私は彼によって話しかけられました。	I was spoken to by him.		
⑥	彼らは彼によって笑われました。	They were laughed at by him.		
⑦	この車は雪で覆われています。	This car is covered with snow.		
⑧	私は英語を話すのを聞かれました。	I was heard to speak English.		
⑨	彼は日本語を書くように言われました。	He was told to write Japanese.		
⑩	私達は彼を手伝わされました。	We were made to help him.		

have(has)＋動詞の過去分詞形 を完了形といい、過去の出来事が現在につながっていることを表します。
「ずっと～している」「～したことがある」「～してしまった」「～したところだ」という意味があります。
have や has の後に not をつけると否定文、have や has を文頭に置くと疑問文になります。

①	彼は5年間日本にずっと住んでいます。	He has lived in Japan for five years.		
②	彼は5年間日本にずっと住んでいません。	He hasn't lived in Japan for five years.		
③	彼は5年間日本にずっと住んでいますか？	Has he lived in Japan for five years?		
④	彼らは今までに日本に行ったことがあります。	They have ever been to Japan.		
⑤	彼らは今までに日本に行ったことがありません。	They have never been to Japan.		
⑥	彼らは今までに日本に行ったことがありますか？	Have they ever been to Japan?		
⑦	彼女はすでに日本に行っていました。	She has already gone to Japan.		
⑧	彼女はまだ日本に行っていません。	She hasn't gone to Japan yet.		
⑨	彼女はもう日本に行っていましたか？	Has she gone to Japan yet?		
⑩	私はちょうど宿題を終えたところです。	I have just finished my homework.		

完了形の have や has を had にすると過去の意味、have の前に will をつけると未来の意味になります。

have been＋動詞の ing 形 で「ずっと～し続けている」という完了形と進行形を合わせた意味になります。
have been＋動詞の過去分詞形 で「ずっと～されている」という完了形と受け身を合わせた意味になります。

①	彼は5年間日本にずっと住んでいました。	He had lived in Japan for five years.		
②	彼は5年間日本にずっと住んでいませんでした。	He hadn't lived in Japan for five years.		
③	彼は5年間日本にずっと住んでいましたか？	Had he lived in Japan for five years?		
④	彼女は宿題を終えてしまっているでしょう。	She will have finished her homework.		
⑤	彼女は宿題を終えていないでしょう。	She won't have finished her homework.		
⑥	彼女は宿題を終えてしまっているでしょうか？	Will she have finished her homework?		
⑦	私達は2時間ずっと走り続けています。	We have been running for two hours.		
⑧	彼は2時間ずっと泳ぎ続けています。	He has been swimming for two hours.		
⑨	彼らは何年間もずっと好かれています。	They have been liked for many years.		
⑩	このペンは何年間もずっと使われています。	This pen has been used for many years.		